

平成3年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. 4

## 刊行にあたって

当館は、昭和42年4月、米沢市立上杉博物館として設置し、市民の教育、学術及び文化の発展に努力してまいりました。

開館24周年を迎えた平成3年度においては、「戦国武将展」をはじめ7件の特別展を開催いたしました。

「戦国武将展」では、重要文化財「洛中洛外図屏風」を中心に、重要文化財「上杉家文書」の中から戦国時代の武将の書状を展示しました。そして、緊急に調査研究しなければならない貴重な職人の技に焦点をあてた「米沢の職人尽くし展」を、さらに、埋蔵文化財の発掘調査をふまえての「米沢の埋蔵文化財展」など多彩な事業を開催いたしました。

当館は、管理運営の委託をお願いしております(財)米沢上杉文化振興財団のご努力によりまして、順調に事業が進捗するなかで、多くの方々にご観覧いただいております。また、平成2年に設置した米沢市歴史民俗博物館構想懇談会から意見書をいただき、本市にふさわしい博物館の建設に向けての準備も着々と進めております。

これからも市民に親しまれる米沢市立上杉博物館となるように努力していきたいと存じますので、なお一層のご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年3月

米沢市教育委員会

教育長 小 口 亘

# 目 次

●館の概要	1
・目的と沿革	
・施設	
・博物館日誌	
●平成3年度事業	4
・展 示 (1) 戦国武将展	4
(2) 端午の節句武者人形展	7
(3) 米沢の職人尽くし展	10
(4) 第2回昆虫展	13
—ところ変れば虫かわる—	
(5) 日本刀展	16
—南北朝時代の名刀展—	
(6) 秋の優品展	19
(7) 米沢の埋蔵文化財展	22
—古代からのメッセージ—	
(8) 館藏品展	25
・収 集 平成3年度受入資料	26
収蔵資料件数	31
●資料利用状況	32
・掲載許可内容一覧	32
・平成3年度入館状況調	34
●組織・名簿	35
・市立上杉博物館協議会	35
・財団法人米沢上杉文化振興財団	36
・米沢市立上杉博物館	37

# 館の概要

## 目的と沿革

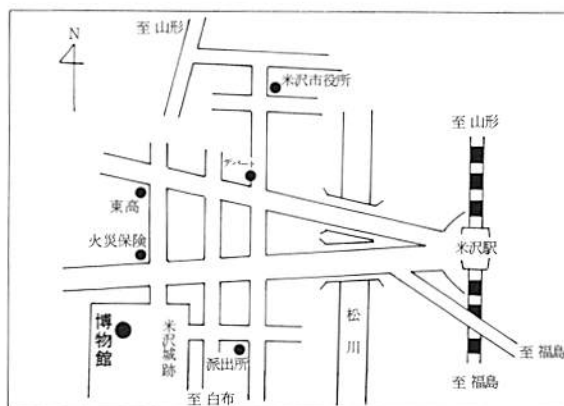
米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・市立米沢郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ名も米沢市立上杉博物館となつて、そのあゆみを始めた。

当館では、価値ある資料を収集・保管し調査研究に基づく展示を行って教育的配慮の下に一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。

- 昭和5年10月 元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
- 昭和13年4月 市政50周年記念として米沢市に移管され市立図書館に併設。
- 昭和27年9月 博物館相当施設として登録、市立米沢郷土博物館と称す。
- 昭和30年9月 市立米沢図書館に移転（旧市立米沢図書館）。
- 昭和37年7月 博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
- 昭和41年11月 丸の内一丁目4番13号に、市立米沢博物館新館完成。
- 昭和42年4月 博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
- 昭和42年6月 博物館施設として登録。
- 昭和43年5月 社団法人上杉博物館協会設立。
- 平成2年3月 財団法人米沢上杉文化振興財団設立

## 施 設

総	面	積	471.0 m <sup>2</sup>
陳	列	室	129.6 m <sup>2</sup>
展	示	室(兼)ホール	126.6 m <sup>2</sup>
収	蔵	庫	51.84m <sup>2</sup>
研	究	室	32.4 m <sup>2</sup>
事	務	室	9.72m <sup>2</sup>
映	写	会	4.86m <sup>2</sup>



## 平成3年度 博物館日誌

- H 3. 4. 16 仙台市博物館から甲冑3領借用 5/8返還（内訳：伊達政宗所用具足、伊達綱村所用具足、伊達慶邦所用具足）
4. 20 第1回特別展「戦国武将展」開催 5月6日まで
4. 29 上杉隆憲氏、邦憲氏来館
4. 30 仙台市博物館 浜田副館長来館
5. 17 端午の節句武者人形展写真撮影、人形展览展示品借用 6/14返還
5. 24 第2回特別展「端午の節句武者人形展」開催 6月30日まで  
南陽市社会教育課職員来館
6. 6 博物館実習生（我妻祐子さん、郡山女子短期大学部生）受入れ 7日まで
6. 18 「米沢の職人尽くし展」資料借用 7/11返還
6. 22 第3回「米沢の職人尽くし展」開催 7月10日まで
7. 3 米沢市警察署 防犯設備点検、県文化課 浦上氏他来館
7. 8 昆虫標本整理指導講師 中根猛彦氏来館 11日まで
7. 18 我妻栄博士胸像ブロンズ 我妻栄記念館へ5年間の貸出し
7. 20 第4回特別展「第2回昆虫展」 9月1日まで
7. 24 大塚巧藝社、便利堂他 「洛中洛外図屏風」下見
7. 25 昆虫講師 山谷氏来館
7. 31 県立博物館へ昆虫標本6点貸出し 12/5返還
8. 6 佐藤繁氏（上越教育大学大学院生）「桜井祐一」の調査で来館
8. 8 博物館実習生（渡部浩二さん、新潟大学人文学部生） 11日まで
8. 24 上越市より視察、50名
9. 5 館藏品展示替え、(財)日本美術刀剣保存協会 辻本講師来館
9. 7 第5回特別展「第21回日本刀展」開催 9月29日まで
9. 14 (財)日本美術刀剣保存協会米沢支部 宇津木氏指導のため来館
10. 4 桜井祐一作品写真撮影
10. 5 第6回特別展「秋の優品展」 10月27日まで
10. 30 桜井祐一展（於ふれあいプラザ）へ ブロンズ像貸出し 11/10返還
11. 2 第7回特別展「米沢の埋蔵文化財展」 11月24日まで  
NHK、米新、ニューメディア、産経、読売、各社取材
11. 3 「文化の日」にちなみ入館料無料公開
11. 7 市教育委員会社会教育課主催の公民館職員研修 25名来館
11. 21 朝日新聞社写真撮影
11. 23 市広報課取材
12. 1 「館藏品展」開催
12. 11 千葉市郷土博物館より視察

- 12. 25 屋根のコーキング修理
- H 4. 1. 26 文化財防火デーで防火訓練
- 1. 28 市議会事務局から5名視察、聖教新聞の鷹山公像（木彫）写真撮影
- 1. 30 東海市より細井平洲関係資料調査で来館
- 2. 5 最上義光記念館の木村重道氏来館
- 2. 13 下水道工事の為、臨時休館
- 2. 25 下水道工事始まる
- 3. 11 福島県立博物館より来館
- 3. 16 上杉博物館資料収集審査会
- 3. 18 熊本県八代市博物館より来館
- 3. 21 休館日 「洛中洛外図」写真撮影、大塚巧藝社から並木氏来館
- 3. 26 臨時休館 「洛中洛外図」屏風複製で写真撮影 29日まで

# 平成3年度事業

## 展 示

### (1) 戦国武将展

平成3年度第一回特別展は「戦国武将展」で、本市所蔵品である「上杉家文書」及び「洛中洛外図屏風」を展示公開している。近年、上記の資料に対して映像や出版物への掲載許可申請が増え、関心の高さが伺える。この時期は恒例の「上杉まつり」と重なり、市民はもとより県内外の来訪者も多くなることもあって、これらの文化財への認識をさらに深め、博物館に一層の親しみをもってもらえるよう企画した。

織田信長が上杉謙信に「源氏物語図屏風」とともに贈ったとされる「洛中洛外図屏風」は、桃山文化を代表する一人である狩野永徳作といわれ、高い技倆が伺える優品である。室町後期の平安京を俯瞰するように、市中、郊外の名所や四季の情景、人物を生き生きと細密に描いて金泊雲形でうまく処理している。

「上杉家文書」は、米沢藩主上杉家に伝来した武家文書であり、ほとんどの文書が受け取られた当時のままに保存されている。1752通の中から、今回は戦国時代に活躍した英雄の書状を中心に展覧した。上杉謙信、豊臣秀吉、織田信長、徳川家康、足利義昭、石田三成、北条氏政、前田利家などであり、歴史にあまり関心を持たない人にも知られている武将たちの書状である。

戦国時代を少し下るが、後に初代米沢藩主となる上杉謙信の養嗣子景勝の羽柴越後中納言宛、慶長3年正月10日付、豊臣秀吉朱印状が目を引く。景勝は將軍秀吉の命をうけて越後から奥州会津若松へと国替えになったが、朱印状には武家奉公人は勿論のこと中間、小者に至るまで一人も残さず新領地に召し連れ、検地帳登録の百姓は召し連れはならないと命じている。

武具甲冑では、米沢に生まれて25歳で岩出山に転封され初代仙台藩主となった伊達政宗の所用具足や、前田慶次（慶次郎）所用具足等を展示している。戦国の奇傑といわれる前田慶二は前田利家の甥にあたり、天賦の才には恵まれてはいたが、京都での浪々15年の間に文武全般に精進したという。文武の道で自分を凌ぐ人物として直江山城守兼統と交わり、上杉景勝とも接して人間性にひかれ家臣となった。上杉軍が関が原の戦いに破れて撤退する時にしんがりを引受けたのが慶二で、その戦いはみごとで将兵を損うことがなかったという。米沢市東部、万世町堂森山の清水のほとりにある庵で、飄々として酒脱な生涯を送ったと伝えられる。

会 期 平成3年4月20日～5月6日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 (財)米沢上杉文化振興財団

入館者数 一般3,537人、学生251人、小中生560人、  
団体一般23人、団体小中生20人、会員・  
その他966人、合計5,357人

パンフレット配布



出品目録

紙本金地著色洛中洛外図（六曲屏風一双）

狩野永徳筆

全出展 米沢上杉博物館蔵

太刀 銘 長船長光 附打刀拵

重要文化財

上杉家文書

重要美術品

重要文化財

信濃守（由良成繁）宛 遠山康光書状	（永禄13年）	2月6日
小沢大蔵少輔宛 上杉景勝書状	（天正7年）	6月19日
羽柴越後中納言（上杉景勝）宛 豊臣秀吉朱印状	（慶長3年）	正月10日
直江大和守（景綱）宛 織田信長書状	（永禄12年）	卯月7日
佐竹左京大夫（義重）宛 羽柴秀吉直書	（天正14年）	4月19日
山田喜右衛門尉（元貞）宛 直江兼続書状		9月5日
山吉孫次郎（豊守）宛 直江景綱書状	（元龟3年）	6月18日
静松寺宛 武田晴信書状	（弘治2年）	3月11日
上杉（景勝）宛 武田勝頼書状	（天正6年）	12月23日
上杉（輝虎）宛 伊達輝宗書状	（天正4年）	7月28日
上杉（景勝）宛 伊達政宗書状	（天正15年）	霜月16日
上杉（輝虎）宛 今川氏真書状案	（永禄10年）	12月21日
上杉（景勝）宛 芦名止々斎（盛氏）書状	（天正8年）	卯月16日
山内（上杉輝虎）宛 北条氏康書状	（元龟元年）	5月12日
山内（上杉輝虎）宛 北条氏政書状	（永禄13年）	3月9日
山内（上杉輝虎）宛 佐竹義重書状	（永禄11年）	極月27日
山内（上杉景勝）宛 宇都宮国綱書状	（天正13年）	4月19日
山内（上杉景勝）宛 芦名盛隆書状	（天正10年）	8月12日
上杉輝虎宛 北条氏照書状	（永禄12年）	正月7日
上杉景勝宛 石田三成書状		極月28日
上杉景勝宛 増田長盛書状	（慶長3年）	9月29日
会津中納言（上杉景勝）宛 前田利家書状	（慶長3年）	5月25日
上杉弾正少弼（景勝）宛 丹羽長重書状	（天正13年）	7月8日
会津中納言（上杉景勝）宛 徳川家康書状	（慶長3年）	10月2日
村上源五（国清）宛 酒井忠次書状		10月8日
上杉弾正少弼（輝虎）宛 室町将軍家足利義昭御案内書	（永禄12年）	卯月7日
北条左京大夫（氏康） 北条相模守（氏政）宛 上杉輝虎条書	（永禄13年）	3月5日
上杉輝虎署名消息手本（複製）		永年11年10月吉日
上杉家家中名字盡（複製）		天正5年12月23日
伊呂波盡手本（複製）		年月日未詳



• 甲 冑

上杉景勝所用 (県指定文化財)	浅葱糸威黒皺草包板物二枚胴具足	勤宮坂考古館
直江兼統所用 (県指定文化財)	浅葱糸威錆色塗切付札二枚胴具足	〃
前田慶次所用具足		〃
初代仙台藩主 伊達政宗所用具足		仙台市博物館
四代仙台藩主 伊達綱村所用具足		〃
十三代仙台藩主 伊達慶邦所用具足		〃
直江大和守景綱所用具足		個人蔵
金箔押二枚胴腰紅萌黄威段替具足		米沢市立上杉博物館蔵
栗林治郎左衛門頼忠所用 素懸浅葱糸威五枚胴具足		〃
坂田采女所用具足		〃

• 武者 絵

川中島大合戦	一声斎芳鶴筆	個人蔵
山本勘介晴行入道討死の図	一勇斎国芳筆	〃
上杉武田対陣矢合之図	玉蘭斎貞秀筆	〃

- 火縄銃10匁筒 (攝州住□□屋小兵衛作) 米沢市立上杉博物館蔵
- 弾丸作り道具 〃
- 上杉謙信座像 金子直裕作 〃
- 上杉謙信書「第一義」(複製) 〃
- 直江兼統肖像画 〃
- 旗指物馬駿等書上面附帳 市立米沢図書館



館 内 風 景



前田慶次所用具足

## (2) 端午の節句武者人形展

旧暦5月5日は端午の節句といい、「端」は初めの意。「午」は「五」に通じ「五月初めの五日」の意であり、五節句の一つ。端午の節句、あやめの節句、重五、端陽ともいう。

五月は一年中で一番大切な月とされてきた。寒さと暑さの別れ目の月で、人間が一番肉体的に弱り、病気におかされやすい季節なので、端午の節句は、邪気、病魔を払う為に行われた行事であった。

奈良・平安時代は「菖蒲の節会」といって、菖蒲を御殿の軒につけたり、参列者が冠や髪飾りにさした。室町時代には、武士たちが実物の槍や旗印などを軒先に立てた。庶民もこの日を男の子の日として、子供達に石合戦をさせる地域もあった。江戸時代以降、男子の節句とされ、武家で甲冑、幟を飾ったのにならい、町民も武者人形などを飾り、鯉幟を立て、粽や柏餅を食べたり菖蒲湯に入っているようにもなった。

端午の節句に飾る五月人形は、現在の形に似たものが出てきたのが元禄年間頃からで、近代以降になると武士になって、甲冑、武者人形などを飾り、庭前に幟旗や鯉幟を立てて男子の成長を祝うようになった。元禄年間頃の五月人形は紙製で、鎮西八郎為朝、義経、弁慶、朝日奈三郎、鐘道などで武者人形と呼ばれている。江戸後期の文化文政頃から歌舞伎に登上する人物が題材に用いられるようになった。格狭間のある黒塗りの台の上で歌舞伎特有の表情、動きのあるポーズをしているのが竹田人形である。明治時代になると新しい時代の人形として陸軍大将など飾られたが、第二次大戦後からは丈夫で健康に育ててほしいとの親の願いから金太郎などが好まれるようになった。米沢の相良人形も展示しているが、土人形としては、伏見や堤、博田人形等とともに代表的なものとされている。上杉鷹山の命により、陶業に従事していた下級武士の相良清左衛門厚忠によって始

められ、文化文政期を頂点として栄えた。型は数十種もあり仙台の堤人形よりも小型で愛らしく、作風は端正かつ瀟洒、独特の風格があり、文様も繊細な筆づかいで描かれている。御所人形風のものも多く、頭部に描かれる水引模様は御所人形に劣らないほどだといわれる。相良人形は相良家だけに伝承されている。

会 期 5月24日～6月13日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 助米沢上杉文化振興財団

入管者数 一般929人、学生22人、小中生89人、  
団体一般41人、合計1,081人

図録作製、販売

パンフレット配布



ポスター

## 出品目録

- |    |          |                 |          |
|----|----------|-----------------|----------|
| ・武 | 将        | 竹田人形            | 江戸期      |
| ・武 | 将        | 竹田人形            | 江戸期      |
| ・和 | 唐内       | 竹田人形            | 江戸期      |
| ・牛 | 若丸       | 竹田人形            | 江戸期      |
| ・鍾 | 尙        | 竹田人形            | 江戸期      |
| ・釣 | 鍾弁慶      |                 | 明治末～大正初期 |
| ・清 | 正虎退治     |                 | 明治末～大正初期 |
| ・鍾 | 尙        |                 | 明治末～大正初期 |
| ・八 | 幡太郎義家    |                 | 大正期      |
| ・家 | 康と本多     |                 | 大正期      |
| ・牛 | 若弁慶      |                 | 大正期      |
| ・鍾 | 尙        | 木彫              | 大正期      |
| ・加 | 藤清正      |                 | 大正期      |
| ・武 | 蔵坊弁慶     |                 | 大正期      |
| ・鯉 | のぼり揚げ    |                 | 大正期      |
| ・神 | 武天皇      |                 | 大正期      |
| ・日 | 本武尊      |                 | 大正期      |
| ・鎮 | 西八郎為朝    |                 | 大正期      |
| ・金 | 太郎と熊     |                 | 大正期      |
| ・乗 | 馬義経      |                 | 昭和初期     |
| ・金 | 太郎暫      |                 | 昭和初期     |
| ・熊 | 乗り金太郎    |                 | 昭和初期     |
| ・五 | 月節句錦道具一式 |                 |          |
| ・武 | 者絵       | 山城之國笠城石家合戦之図    | 一勇齋国芳画   |
| ・武 | 者絵       | 治承四年八月石橋山大合戦    | 一寿齋芳員画   |
| ・武 | 者絵       | 空中に怪異を見る図       | 一勇齋国芳画   |
| ・武 | 者絵       | 前太平記築紫合戦図       | 玉蘭齋貞秀画   |
| ・武 | 者絵       | 宇治川合戦之図         | 一勇齋国芳画   |
| ・武 | 者絵       | 太平記之内天津打出浜大合戦之図 | 一惠齋芳幾画   |
| ・武 | 者絵       | 一谷大合戦之図         | 一寿齋芳員画   |
| ・武 | 者絵       | 川中島大合戦          | 一声齋芳籙筆   |
| ・武 | 者絵       | 上杉武田対陣矢合之図      | 玉蘭齋貞秀筆   |
| ・武 | 者絵       | 山本勘介討死之図        | 一勇齋国芳筆   |
| ・武 | 者絵       | 義経英勇勒           | 一勇齋国芳筆   |
| ・武 | 者絵       | 木曾英勇勒           | 一勇齋国芳筆   |
| ・武 | 者絵       | 平家英勇勒           | 一勇齋国芳筆   |

- 武者絵 楠 英勇勒
- 武者絵 観音靈験記
- 武者絵 曾我物語図絵
- 武者絵 英勇組討鑑
- 墨 摺 菊池系図 他
- 本朝武勇鑑 (20図)
- 五月節句玩具 相良人形
- 相良人形
- 相良人形
- 相良人形
- 相良人形
- 九州帖左人形
- 花巻人形
- 中山人形
- 鴻巣人形
- 木目込具足
- 武者のぼり旗
- 甲 冑
- 武 具 類

- 一勇斎国芳筆
- 豊国画
- 広重画
- 関斎画
- 5点
- 揚洲周延筆
- 武者
- 乗馬武士
- 熊乗り金太郎
- 太田道灌
- 佐々木高綱
- 武将
- 武将
- 山姥と金時
- 熊金

牛若弁慶 仁丹四郎猪狩り  
 紫糸威二枚胴具足 他一領  
 (陣太刀・馬印・槍・長刀・弓・火縄筒)



竹田人形「和唐内」江戸期



鐘 旭  
 明治末～大正初期



相良人形 五月節句玩具  
 左から「乗馬武士、武者、佐々木高綱、太田道灌」

### (3) 米沢の職人展

地域に根ざした無形民俗文化財として貴重であるが、新しい素材や技術の開発、生活様式の変化などで失われるようとしている職人の技術を紹介したく企画した。本展では数ある諸職のうち、桶・筆・下駄について製作の工程を区切って、使用される道具とともに展示した。道具や工程をあらわす用語も専門的で、普段目にしないため新鮮に映ったようで、年配の方には懐しい展覧会となった。

米沢が近世城下町として整備されるのは上杉氏が会津から転封となった慶長6年(1601)以降のことである。それ以前の伊達・蒲生時代からあった大町・東町・立町・柳町・南町・新町の6町は本町と呼ばれ、問屋や酒造などの大店が多かった。免許町・鍛冶町・長町・北町・銅屋町・紺屋町・東寺町・今町・新桶屋町・鉄砲屋町・馬口旁町・川井小路・地番匠町の13町は脇町と称され、職人達が多く住んだ。このうち蒲生時代に成立した免許町は、直江兼継が米沢を支配した慶長3年(1598)には「御免許町」と呼ばれていた。刀や槍の研師や鞘師といった御用職人が多く住んでおり、彼らは諸税を免許(免除)されたので、免許町と呼ばれたのであろうと考えられている。

直江兼継は上杉氏の米沢移封後、武器や日用品の自給自足体制をとり、関東・関西の先進地から優れた職人を指導者として召し抱えた。慶長14年(1609)の町割りの際には、同職・同業の者を同じ町に住まわせた。

元和元年(1615)の大阪夏の陣以降、国内が平穏になるに伴って、武具職人の仕事は必然的に激減した。米沢藩では鉄砲鍛冶の凋落が最も著しかった。時代が下って弘化3年(1846)、米織が藩最大の産業として定着した時期であるが、「機織」「賃織」はわずか3戸であり、機織が武士の独占であったことを証明している。寛文4年(1664)、米沢藩が30万国から15万国に減封されるに及び、藩主・藩氏の生活は困窮を極めた。織物も筆結も

上杉鷹山の奨励によるものと伝えられるが、武士の内職として産出されたものである。

歴史の変遷の中で、職人、職人町、そこから生み出されるものもまた変化するわけであるが、ひとときその勢いの激しい現代においてが伝統的職職が失われようとしている。

会 期 平成3年6月22日～7月10日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 財団法人米沢上杉文化振興財団

入館者数 一般960人、学生35人、小学生46人団体一般75人、団体小中生25人、計1,141人

パンフレット配布



ポスター

## —パンフレットより—

### 桶 屋

東寺町が町屋敷の一つに数えられたのは、西側に桶結<sup>おけゆ</sup>いが置かれたためと思われる。弘化3年（1846）の水帳では、寺院が22に対し桶結<sup>おけゆ</sup>いが23戸ある。慶長・元和年間には城下町づくりによって桶の需要が激増したため、元和2年（1616）、新たに新桶屋町がつけられた。

#### 製作の工程（ ）内は道具

- 小わりした板や底板など、必要量の材料をそろえる。(割り鉋<sup>なた</sup>)
- 外削り…型で湾曲度をはかり外側の丸味をつける。(外丸せん、桶型)
- 内削り…内側の丸味をつける。(内せん)
- 正直削り…角度をつけて合わせ目を削る。(正直台)
- 「たが」をかける。
- 中削り…内側をまるく削る。(内丸鉋<sup>かんが</sup>、内鉋)
- 底板を入れる。(底すり、鉋)
- 外削り…外側を削り仕上げる。(外丸鉋、外鉋)



桶 作 り

### 下駄屋

#### 製作の工程

- 芽ぶきの前、3、4月頃に桐の木を伐採する。(二人引<sup>のこぎり</sup> 鋸、根切鋸、枝おろし鋸、刻印)
- 玉切り…原木を長さ8寸5分ずつ切る。(たち切鋸)
- 木取り・墨つけ…玉切りされた桐材の小口の太さに応じて、切る箇所<sup>に</sup>に墨で線を引く。(墨入れ、墨つけべら、墨つけ板)
- 組取り…墨つけされた線に従って切っていく。(組取り鋸、仕事台)
- 天然乾燥…約6ヶ月
- 五分工程…厚さ、高さ、刃型の高さを一定にする。(鉋)
- 七分仕上…小口の4ヶ所に鉋をかける。(十能、丸つき、おがみ鉋)
- 鼻まわし…丸味をつける。(鼻まわし鉋、台)
- 穴あけ…鼻緒と両側の緒の入る部分に穴をあける。(穴あけ、胸当て板)
- 磨 き…下駄の表面、側面に砥粉<sup>とりのこ</sup>を塗って乾かし、これを落とし、さらにイボタろうを塗り、うずくりで磨く。(イボタろう、うずくり)



下 駄 作 り

## 筆 屋

米沢の筆は江戸時代の藩士の内職であった。明和年中に上杉鷹山が藩士を京都に遣わし、さらに京都より筆師を招いて奨励したと伝えられる。やがて米沢藩の特産物として、備後の福山筆と肩を並べるに至った。明治になって学制がしかれると需要が急増し、明治6年には310余万もの筆を産出した。

### 製作の工程

- 火のし…毛のくせをなくすため、新聞紙の中に原毛を入れて、七輪にあげ、重しをする。(七輪、鉄板、重し)
- 毛もみ…毛の油分を抜く為、“火のし”した毛にモミの灰を加え、もむ。(靱灰、箱、板)
- 荒寄せ…毛もみした毛を櫛を用いてまとめ、紙に巻いておく。(櫛)
- 本寄せ…寄せ板を用い、さらにまとめる。穂先のない毛を取り除く。(寄せ板、はんさし)
- なめる…本寄せした毛を寄せ金にのせ、なめて(ぬらす)これを櫛と半さし、なめ板を使用して開く。開く際、穂先をくずさないよう留意する。(寄せ金、なめ板、櫛、半さし)
- 寸切り…開いた毛を寸法にあわせて切る。(はさみ)
- 毛ませ…穂先に使用する毛(2~3種類)をよく混ぜ合わせる。筆の良し悪しを左右する工程。(半さし)
- 毛ませ…穂先用の毛と腰(太み)に使用する毛をませ合わせて筆の形にする。
- 芯立て…上記の毛を寸法のツボ(太さを決める)に入れ芯立てをする。芯を固めるため“ふのり”を使い、乾す。(ツボ、ふのり、糊こき用櫛)
- 上毛かけ…芯の毛に上毛を巻きつける。
- 尾じめ…焼きごてをあてて根元を焼き固め、麻糸で締めて結ぶ。(焼きごて、麻糸)
- 仕上げ…軸にすげて、ふのりで頭を固める。(軸、ふのり、接着剤)



筆 作 り

#### (4) 第2回 昆虫展 一とこる変れば虫かわる一

山谷文仁氏寄贈の昆虫標本をもとにした昆虫展であるが、第1回の「歴史の語りべたち」に続いて、第2回は「とこる変れば虫かわる」と題し、下記の4つのコーナーに分けて展示した。

##### ・「とこる変れば虫かわる」

山谷コレクションの核であるオサムシは、後羽が退化して飛べないため、長い間に川のあちら側とこちら側で色や形が変化してしまい、方言が違えばオサムシも違っているといわれるほど変異に富んでいる。マイマイカブリやアオオサムシなど、美しい色彩をもつ種類は外見でその違いがわかるが、他の多くのオサムシは羽の彫刻や交尾器などにわずかな違いみられる。このコーナーではオサムシ以外にも、変異に富むチョウなどを展示したが、いずれも羽があってもあまり遠くへ飛べない種である。永河期をはじめとする厳しい環境がやってきても耐えぬいて生き抜くような（簡単に適地を求めて移動できない）虫たちなので、これらの虫の色や形、暮らし方を調べることで、地域の歴史の一端がわかってくることもある。

##### ・「郷土の小さな仲間たち」

このコーナーでは「上杉博物館蔵昆虫目録」として整理・発表の済んだグループを展示した。山谷コレクションの整理は、そのまま地域昆虫目録の作成につながるものといえ、今回の展示品の中だけで40種以上の山形県初記録昆虫が含まれている。また、例えばどんなゲンゴロウがいつから米沢でみられなくなったか、といった地域の自然環境の衰亡を示すデータともなっている。

##### ・「虫が危い」

ここでは絶滅に瀕している日本の昆虫、世界の昆虫を写真集をもとに展示した。

##### ・「ふるさといきものの里への試み」

絶滅をくいどめ、昆虫を指標として生活環境を豊かにしていく試みが始まっている。「ふる里いきものの里100選」（環境庁自然保護局）には、小

動物生息環境保全地域として県内から6地域選定されているが、そのうち米沢市小野川「ホタルの里」と、川西町「チョウとトンボと古墳の公園」をとり上げ、住民の取り組み等を知っていただけるように展示した。

会 期 平成3年9月20日～9月1日（日）

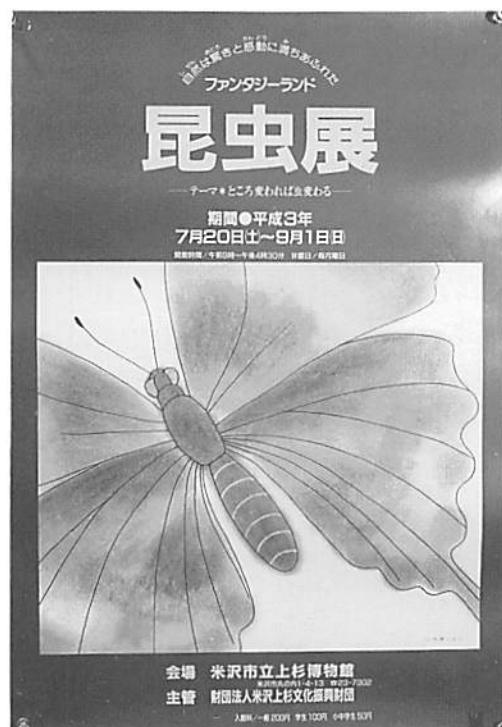
共 催 山形県教育委員会

米沢市立上杉博物館

主 管 財団法人米沢上杉文化振興財団

入館者数 一般4,083人、学生538人、小中学生  
1,743人、団体一般109人、団体小中生  
150人、合計6,643人

パンフレット配布



ポスター



## ーパンフレットよりー

### 小野川「ホタルの里」

保全体策・ゲンジボタル・ハイケボタル・ヒメボタル

小野川は、市街から車でおよそ25分、米沢の奥座敷と呼ばれる温泉町である。

国立公園吾妻連峰から流れだす豊かな水量と自然環境に恵まれ、昔からホタルが生息していた。しかし昭和30年代の高度成長期に、家庭雑排水や農業の混入、河川工事などでホタルは絶滅寸前に追い込まれた。

昭和47年に、全住民で組織するホタル愛護会が結成され、毎年20万匹余のホタルの増殖、放流を行うとともに、河川清掃などの環境整備や保護を呼びかける活動を行ってきた。

その成果が表れ始めたのが昭和50年ころ。56年には米沢市天然記念物に指定され、今ではおびただしい数のホタルが飛び交うようになり、市民や観光客の目を楽しませてくれるようになった。

地区では、古くから山野草展を開催するなど、自然を愛する風土であり、自然保護思想が定着している。

### わがまちプロフィール

米沢市は、周囲を山に囲まれた盆地にある。伊達政宗の生誕の地であり、上杉15万石の城下町として栄えた。上杉以来の伝統産業である「米沢織」と、風味豊かな「米沢牛」が特に有名である。周囲の山あいには、吾妻九湯と呼ばれる温泉が点在し、豊かな自然と歴史の調和した町である。

### 川西町「チョウとトンボと古墳の公園」

保全対策・チョウセンアカシジミ・ハッチョウトンボなど

川西町は置賜盆地の西側に位置する稲作地帯の町で、町の西方は海拔200～300メートル級の小高い丘陵である。

在家と呼ばれる集落には堀(環濠)を巡らした屋敷が多く、周辺に茂る樹木は防風・防雪の役割を果たしたり燃料に用いられ、また、木々が堀に落とす葉は、田んぼの肥料として使われるなど、これらの屋敷林は利用価値の高いものであった。しかし、この田園地帯も農業の近代化が見られ、チョウセンアカシジミの生息する屋敷林は、年々減少している。

町では「川西町文化財保護協会」「川西町自然を守る会」の協力を得て、チョウセンアカシジミの生息する屋敷林は、年々減少している。

町では「川西町文化財保護協会」「川西町自然を守る会」の協力を得て、チョウセンアカシジミの生息状況の調査や、保護活動に乗り出した。同時に丘陵上にある15基の前方後円墳を含む古墳群の周辺に広がる湿地帯を中心に、動植物の環境保全と、教育・学習の場としての整備を行っている。

### わがまちプロフィール

川西町は、古墳群や古代の役所跡があることからわかるように、古くから農耕地として開かれており、銘酒の産地でもある。

近年は、丘陵地に数か所のゴルフ場ができ、温泉の開発・整備が行われるなど、リゾート開発が進められている。

本館では平成2年11月号から山谷昆虫コレクションに関する小冊子「ファウナウキタム」を毎月発行している。

ファウナウキタム *Fauna in OITAMA DISTRICT*

-No.12, No.16から-

目次

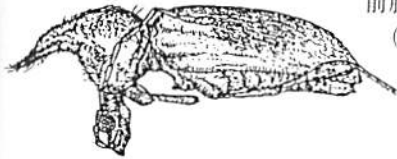
上杉博物館館蔵昆虫目録14甲虫目(クチキムシ科)  
 /山谷文仁・草刈広一 ..... 82  
 ~今月の整理棚から~

ホソアシチビイッカク(アリモドキ科)

*Mecynotarsus tenuipes* Champion



前胸突起の拡大  
(背面より)



行方原因(体長 [翅端~前胸突起先端] 2.7mm)

山形県米沢市芳泉町 1991.VIII.22 lex.行方 崇

変な虫はだいたいなんとなく知っているつもりだったのだが、イッカクというのははじめてだった。8月22日、晴れていたので誘我灯をつけて虫採りをしていた時に採れたようだ。

それにしても台紙にはりつける時も気がつかなかった。ラベルをつけながら頭のないのがあるなあと思いつながめていたらヒゲがついていた。ということは?なんと胴体に対して90°の角度で下向きに頭がついていたのである。そして胴体の上に前向きに三角のイボイボ、ギザギザの角。久しぶりにびっくりした。この角は何につかうのだろうか?頭はなんで下を向いているのだろうか?付き方は、などと気になってくる。いつもはどこにいるのだろうか。

これまでイッカクの仲間は、クロスジイッカクが山形・宮城両県から、チビイッカクが山形県から記録されていただけのようなので、本種は両県通じて初記録になると思われる。

(行方 崇)

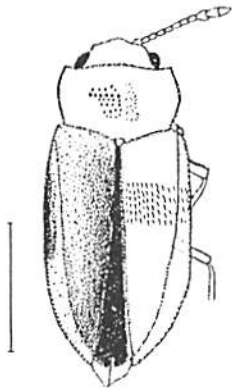
目次

上杉博物館館蔵昆虫目録(17)甲虫目  
(クシヒゲムシ科・ヒゲブトコメツキ科・クビナガムシ科)

山谷文仁・草刈広一 ..... 108  
 ~今月の整理棚から~

ムクゲキスイ属(コメツキモドキ科)

*Cryptophilus* sp.



上杉博物館の2階の昆虫標本室は、クレオゾートやナフタリンの匂いが充満しており、とても標本虫類が侵入できる環境ではないが、1階の展示室ではさまざまな企画展が催されるため、乾物や衣類などにつく昆虫がいるらしい。職員の方が展示用の白色パネル(ハリパネ)を食べていた幼虫を発見して瓶で飼育していたら、カツオムシの仲間が羽化したのには驚いた。図示した微少な甲虫も、館内を這っていたもので、折りしも来館されていた中根猛彦博士によって、即コメツキモドキのユニットボックスに取まった。(1991.VII.10)、所属がたびたび変更されたグループの一つらしく、オオキノコムシ科、キスイムシ科、ムクゲキスイ科(この中にもムクゲキスイ属がある。)あるいは独立の別科とされることもあるらしい。

スケールは1mmで、左は前胸背の点刻の一部の様子と色彩を、右側は前胸や上翅の毛の様子の一部を、それぞれ描いてある。佐々治(1985.保育社)の検索表では背面の色彩からアカスジナガムクゲキスイに似ているが前胸背の形がやや合わず、種名は確定できずにいる。いずれにしても県内初記録と思われる。

(草刈広一)

(5) 第21回 日本刀展 一南北朝時代の名刀展一

本館の日本刀展は米沢市の風物誌とも言われ、市民の方々をはじめ愛刀家、研究者の方々にも待ち望まれる催しとなっている。

昭和46年度に第1回を開催して以来、(財)日本美術刀剣保存協会のご指導、ご協力により様々なテーマで開催してきたが、21回目の今回は「南北朝時代の名刀展」で、各国別に「山城・大和・美濃・陸奥・相模・備前・備中・備後・筑前・豊後」の10国に分けて展示している。

南北朝時代(1331～1391の60年間)は太刀、短刀、脇指、長巻、槍など各種類のものが作られたが、その中で三沢(90cm)以上の長さの大太刀、一尺(30cm)を越える大型化した短刀(小脇指)が出現、また槍がこの時代にはじめて登場した。大太刀と脇指は刀剣類が大型化したこの時代の特色を示すが、出現の理由として考えられるのは元寇での体験で、これまでの常寸の太刀では不利であると大型化を促進した。本展では大型化の例を13点出品している。大太刀は敵を威圧し、騎乗の相手方の馬の足を払うのに有利だが、歩兵が使うには長くて重く動きにくい。そのため、室町時代以降に流行した腰に差して携行する刀(打刀ともいう)に合わせて改装されたものが多い。これは磨上げと呼ばれる操作で、太刀の茎を切りつめて長さを短くし、反りを伏せる。磨上げてはいても、刀身の先の方の大切先は勿論のこと、大部分は当初の姿を残しているので、豪壮な面影をしのぶことが出来る。改装されていない、生ぶの姿のままの大太刀も五口ほど貴重例として展示した。

会期中の毎週土曜日は、日本美術刀剣保存協会米沢支部会員による相談コーナーを設け、刀の手入、保存、鑑賞の仕方などの相談に応じた。

会 期 平成3年9月7日～9月29日  
共 催 山形県教育委員会  
米沢市立上杉博物館  
(財)日本美術刀剣保存協会米沢支部  
主 管 (財)米沢上杉文化振興財団  
後 援 (財)日本美術刀剣保存協会  
入館者数 一般1,748人、学生169人、小中生134人、  
団体一般60人、団体学生81人、団体小  
中生35人、合計2,227人

図録作成、販売  
パンフレット配布



ポスター

## 出品目録

### 1. 山城国

- 重要刀剣  
1. 短刀 銘 来国光 長さ 28.85センチメートル
- 重要刀剣  
2. 短刀 銘 長谷部国信 長さ 27.40センチメートル
3. 刀 銘 長さ 69.90センチメートル
- 重要刀剣  
4. 短刀 銘 信国 長さ 28.80センチメートル
- 重要刀剣  
5. 太刀 銘 信国 長さ 65.10センチメートル

永徳三年八月一日

### 2. 大和国

- 重要刀剣  
6. 短刀 銘 左衛門尉包清作 長さ 28.80センチメートル
- 應安三年十二月日

### 3. 美濃国

- 重要美術品  
7. 短刀 銘 兼友 長さ 28.15センチメートル
- 重要刀剣  
8. 刀 無銘 直江志津 長さ 73.50センチメートル

### 4. 陸奥国

- 重要美術品  
9. 太刀 銘 (額銘) 建武 宝壽 長さ 70.40センチメートル

### 5. 相模国

- 重要美術品  
10. 刀 金象嵌銘 貞宗 長さ 71.90センチメートル
- 本阿 (花押) 光温

- 重要美術品  
11. 脇指 銘 相模国住人廣光 長さ 34.40センチメートル
- 貞治三年三月日

### 6. 備前国

- 重要美術品  
12. 刀 銘 暦応三年 (号明智近景) 長さ 68.20センチメートル
- 重要刀剣  
13. 刀 無銘 長義 長さ 70.90センチメートル
- 重要刀剣  
14. 太刀 銘  長船兼光 長さ 72.70センチメートル
- 重要刀剣  
15. 刀 銘 備州長船兼光 (折返) 長さ 72.00センチメートル
- 重要刀剣  
16. 短刀 銘 備州長船住兼光 長さ 27.00センチメートル

暦應三年十月日

17. 短刀 銘 備州長船政光  
延文二年八月日

長さ 26.20センチメートル

重要刀剣

18. 短刀 銘 備州長船政光  
貞治二年六月日

長さ 27.10センチメートル

19. 刀 金象嵌銘 元重  
本阿（花押）（光忠）

長さ 71.50センチメートル

20. 太刀 銘 備州長船住元重

長さ 72.40センチメートル

21. 太刀 銘 備州国住長船盛景  
（金象嵌銘）明暦貳年十一月六日  
山野加右衛門尉 永久（花押）  
三ッ胴切落

長さ 82.70センチメートル

## 7. 備 中 国

重要刀剣

22. 脇指 銘 備中国住次直作  
文和三年十一月日

長さ 31.00センチメートル

23. 刀 無銘 青江

長さ 75.80センチメートル

## 8. 備 後 国

重要美術品

24. 太刀 銘 備州住  
應安□

長さ 73.50センチメートル

## 9. 筑 前 国

25. 短刀 銘 左  
筑州住

長さ 21.25センチメートル

重要刀剣

26. 脇指 銘 安吉

長さ 31.60センチメートル

重要刀剣

27. 短刀 銘 筑州住弘安  
正平廿年十一月日

長さ 28.00センチメートル

## 10. 豊 後 国

重要刀剣

28. 短刀 銘 豊後州藤原友行  
正平十三年八月日

長さ 28.70センチメートル



## 出品目録

素懸浅葱緋五枚胴具足	栗林治郎佐衛門頼忠所用 1	寄託
大袖鎧 紺緋二枚胴具足	上杉宗房所用	寄託
火繩短筒		以下の全出展 米沢市立上杉博物館蔵
金箔押二枚胴腰紅萌黄威段替具足		
ほら貝		
坂田安女所用具足		
馬具		
能衣裳		
古文書 元禄十年二月二十五日	於御城御能組	
仕舞扇(松)		
火事兜 千坂家		
火事装束 同心着込		
黒井忠寄肖像		
荳戸善政肖像		
竹俣当綱肖像		
養蚕の図	華城中臣美道筆	
細井平洲書		
上杉鷹山肖像		
伝国の辞		
上杉鷹山書		
成島焼		
相良人形		
細井平洲像(ブロンズ)		
短刀 上杉鷹山所用		
上杉鷹山像	鈴木 実作(木彫)	
上杉家家中名字盡手本(複製)		
伊呂波盡手本(複製)		
興譲館の図		
友千堂扁額		
かてもの版木		
お豊の方和歌		
お豊の方・寛之助墓(写真パネル)		
太刀 銘 長船長光	重要美術品	
刀 無銘 (附拵)		
脇差 無銘 (附拵)		
刀 銘 於江府長運齋綱俊作之		

刀 銘 河内守国助  
 槍 無銘  
 槍 銘 米沢臣源正利於三春作  
 刀 銘 家次作  
 四季花木図 寛友 筆  
 紙本淡彩 近江八景 金沢八景図 菅原白龍 筆  
 扇面画 下条桂谷 筆  
 日本画 3点 上杉息慮 筆  
 朱塗漆器 湯桶、銚子、酒次、飯櫃  
 漆器 耳盥  
 銅製金箔婚礼調度 銚子、提子  
 竹雀紋檜扇  
 上杉輝虎願書(複製)  
 上杉謙信座像 金子直裕 作  
 米沢藩鉄砲隊装束  
 玉・火薬入道具  
 火縄銃  
 川中島 上杉謙信・武田信玄対決図 狩野文信 筆  
 玉造り道具  
 蘆名盛隆宛 上杉景勝書状(複製)  
 直江兼統肖像画  
 直江重光(兼統)自筆五楽願書(複製)  
 上杉定勝書  
 薙刀 銘 奥州会津住長岡  
 上杉斎定書  
 上杉鷹山・曦山肖像画  
 上杉斎憲・茂憲肖像  
 上杉茂憲書 2点  
 スネル短筒 上杉茂憲所用  
 武者絵 上杉・武田対陣矢合図  
 武者絵 川中島大合戦  
 武者絵 山本勘介晴行入道討死之図



## (7) 米沢の埋蔵文化財展

### —古代からのメッセージ—

#### (最近の発掘調査から米沢の古代文化を探る)

米沢市では、昭和56年から63年までの分布調査により、現在420箇所の遺跡が確認されている。63年度に始まった山形県中世城館跡調査でも100箇所の城館跡が検出されており、今後の調査でさらに増える可能性がある。

本年度最後の特別展は、最近の発掘調査でわかったことから米沢の古代文化を探ってみた。遺跡は花沢A、一ノ坂、塔ノ原、上新田A、大浦B、大浦C、米沢城で、各遺跡から出土した土器、石器、漆紙文書、陶磁器、昆虫遺体等、300余点を初公開した。

平成元年に発見され、2年から3カ年計画で発掘調査を実施している一ノ坂遺跡は、現在確認されている堅穴住居跡としては全国でも最大級の大型住居跡（ロングハウス）で、138万点にも及ぶ石器が出土している。出土品を分類して得た最大の成果は、石鎌、石匙、両尖匕首、石銚の製作工程を復元出来ることであり、従来の説と異なって、大型の原型から少しずつ形を整えていく方法が確認された。大型堅穴住居跡は石器製作を行っていた工房跡、工場であって、ここで製作された石器は福島県や宮城県、関東地方の一部でも発見されている。

塔ノ原遺跡では、縄文中期後葉期の複式炉をもつ堅穴住居跡と縄文前期末葉期の刻線文様をもつ石製品が出土している。前期の石製品には刻線文様の例がほとんどない。

大浦B・C遺跡は郡衙（役所）跡と考えられ、最大の発見は漆紙文書であり、鑑定の結果、延暦23年（804）12月の「具注暦」であることが判明している。

米沢城二の丸跡からは江戸時代中頃から末期頃に使用されていたと推定される上水道施設が出土している。現代の水道に近い給水施設で、木桶を

配置し、竹の水道管「竹水管」を接続して縦横に張り巡らしたもので、水量調整、管清掃のための工夫もされている。当時の水道技術を解明する上で貴重な資料である。

11月3日の文化の日は、入館料を免除にしている。より多くの市民に文化財に接する機会を提供して、博物館へ親近感を持ち、文化財保護に対する意識を高めていただくという意図からである。

会 期	平成3年11月2日～11月24日
主 催	米沢市立上杉博物館
主 管	財米沢上杉文化振興財団
入館者数	一般1,061人、学生51人、小中生100人、 団体一般69人、団体小中生166人、会 員その他513人、合計1,960人

図録作成 販売

パンフレット配布

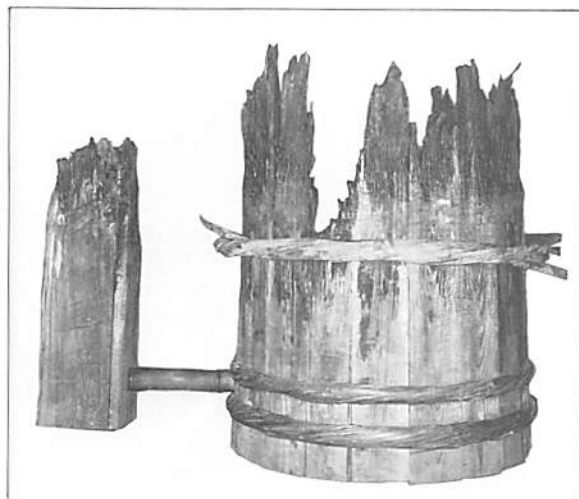


ポスター

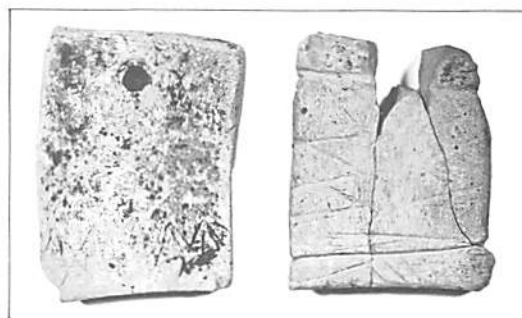
## 出品目録

No	遺跡名	展示品名	時期	点数
1	花沢 A	深鉢形土器	縄文中期	1
2	花沢 A	深鉢形土器	縄文中期	1
3	花沢 A	深鉢形土器	縄文中期	1
4	花沢 A	深鉢形土器	縄文中期	1
5	花沢 A	鉢形土器	縄文中期	1
6	花沢 A	鉢形土器	縄文中期	1
7	花沢 A	甕形土器	縄文中期	1
8	花沢 A	甕形土器	縄文中期	1
9	花沢 A	土偶	縄文中期	1
10	一ノ坂	石鏃	縄文前期	50
11	一ノ坂	石匙	縄文前期	30
12	一ノ坂	同制作工程	縄文前期	9
13	一ノ坂	石錐	縄文前期	30
14	一ノ坂	石銛	縄文前期	2
15	一ノ坂	同制作工程	縄文前期	7
16	一ノ坂	両尖匕首	縄文前期	2
17	一ノ坂	同制作工程	縄文前期	7
18	一ノ坂	白玉	縄文前期	13
19	一ノ坂	石籠状石器	縄文前期	10
20	一ノ坂	深鉢形土器	縄文前期	1

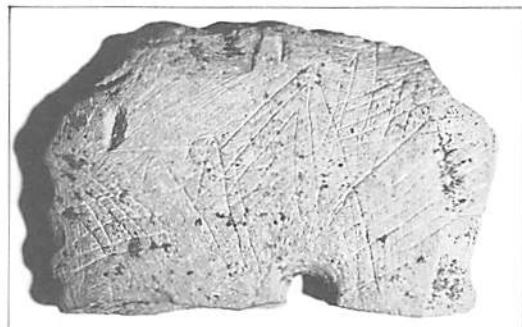
21	塔ノ原	石匙	縄文前期	10
22	塔ノ原	磨製石斧	縄文中期	4
23	塔ノ原	磨製石刀	縄文中期	1
24	塔ノ原	打製石刀	縄文中期	1
25	塔ノ原	琴状石製品	縄文前期	2
26	塔ノ原	有孔石製品	縄文中期	1
27	塔ノ原	袂状耳飾	縄文前期	2
28	塔ノ原	刻線画石製品	縄文前期	1
29	塔ノ原	深鉢形土器	縄文中期	1
30	塔ノ原	注口土器	縄文中期	1
31	上新田 A	土師器甕形土器	古墳後期	2
32	上新田 A	土師器鉢形土器	古墳後期	2
33	上新田 A	土師器甌(単孔)	古墳後期	3
34	上新田 A	土師器甌(多孔)	古墳後期	1
35	上新田 A	土師器壺形土器	古墳後期	1
36	上新田 A	土師器埴形土器	古墳後期	1
37	上新田 A	土師器高環	古墳後期	3
38	上新田 A	土師器碗	古墳後期	2



米沢城跡出土 給水桶 (江戸後期)



琴状石製品



刻線画石製品

塔ノ原遺跡出土 (縄文前期)



## (8) 館蔵品展

本館では、常設展示室を別に設けていないので、特別展によっては全館使用もあることから、冬期間は館蔵品の公開につとめている。

入館者に観光客が多く、当「米沢上杉博物館」に求めるものは上杉家に関係するものであり、展示は上杉家関係資料中心にならざるを得ない。しかし、その中で毎年、新しい意図のもとに展示換えをしている。今回は上杉家の藩主や家臣の肖像画を一堂に集めてみた。

なお、鑑賞の一助にと数種のパフレットを置いており自由に取っていただいている。

期 間	平成3年
主 催	米沢市立上杉博物館
主 幹	勸米沢上杉文化振興財団
入館者数	一般2,346人、学生227人、小中生149人、 団体一般429人、合計3,151人



栗林治郎左衛門頼忠所用  
素懸浅葱糸威五枚胴具足



館内風景

## 収集

平成3年度受入資料 (伝来名称のまま)

• 書籍…… 3点

雲井龍雄書屏風 一隻 (購入)

平田東助書漢詩 一幅 (購入)

山田蝮堂筆七絶の書 一幅 (寄贈)

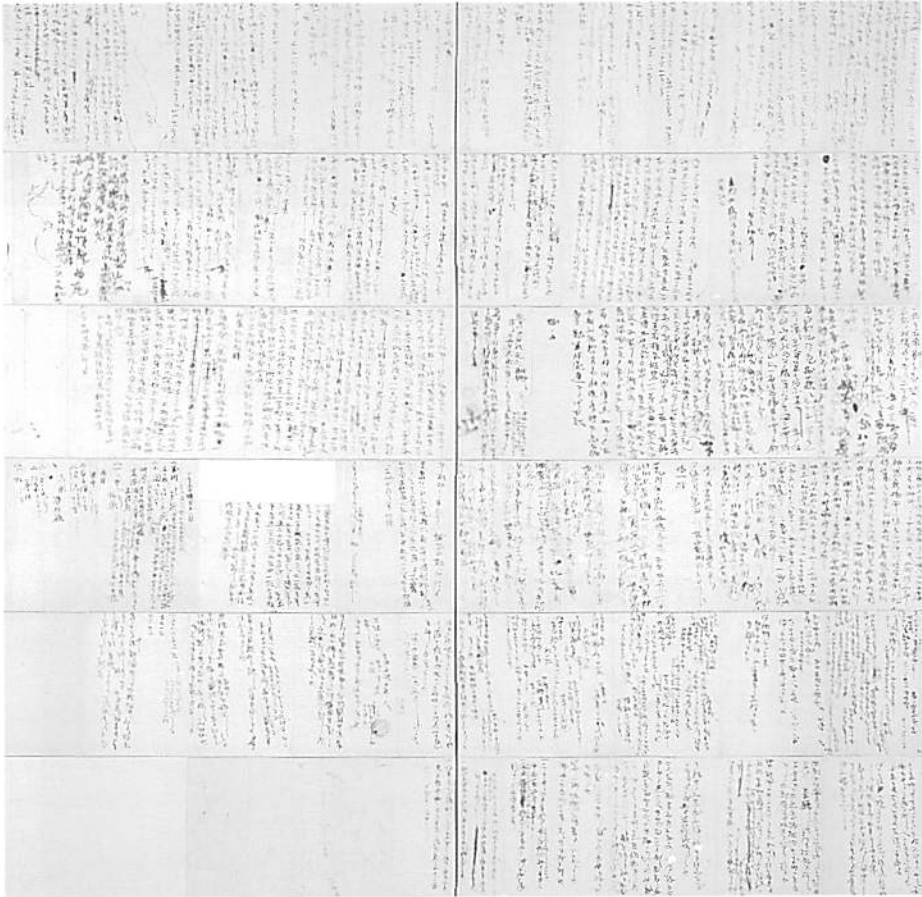
• 絵画…… 4点

金剛流謡狂言十八番 一隻 (購入)

紙本水墨淡彩「嵐溪漁火」本間国生画 一幅 (購入)

鉛筆デッサン「猫」椿貞雄画 一点 (購入)

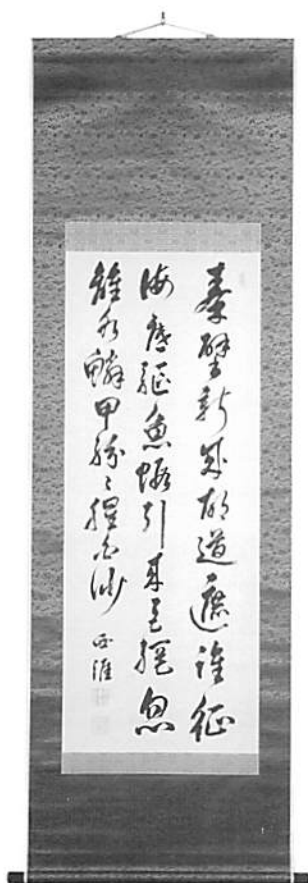
志ん板米沢道中双六 一点 (購入)



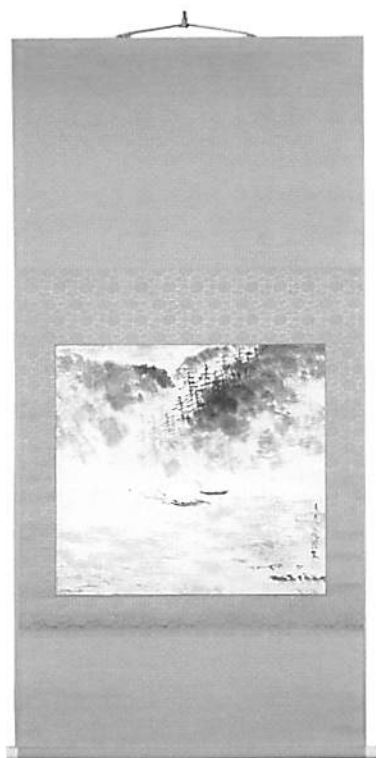
雲井龍雄書屏風

168.6cm×166.0cm

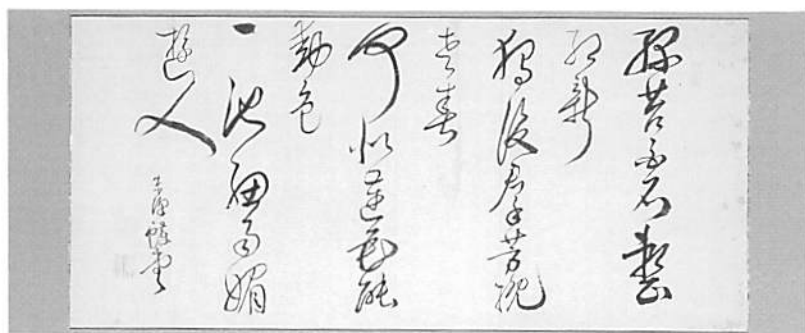
(141.4cm×148.5cm)



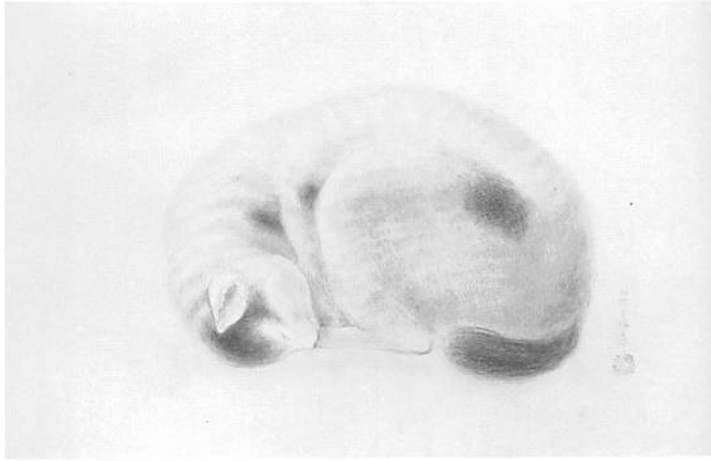
平田東助書 漢詩  
218.0cm×69.0cm  
(128.0cm×50.5cm)



紙本水墨淡彩「嵐溪漁火」  
本間国生画  
150.9cm×72.9cm  
(52.3cm×57.1cm)



山田蝮堂筆「七絶の書」  
44.5cm×93.0cm  
(31.0cm×67.0cm)

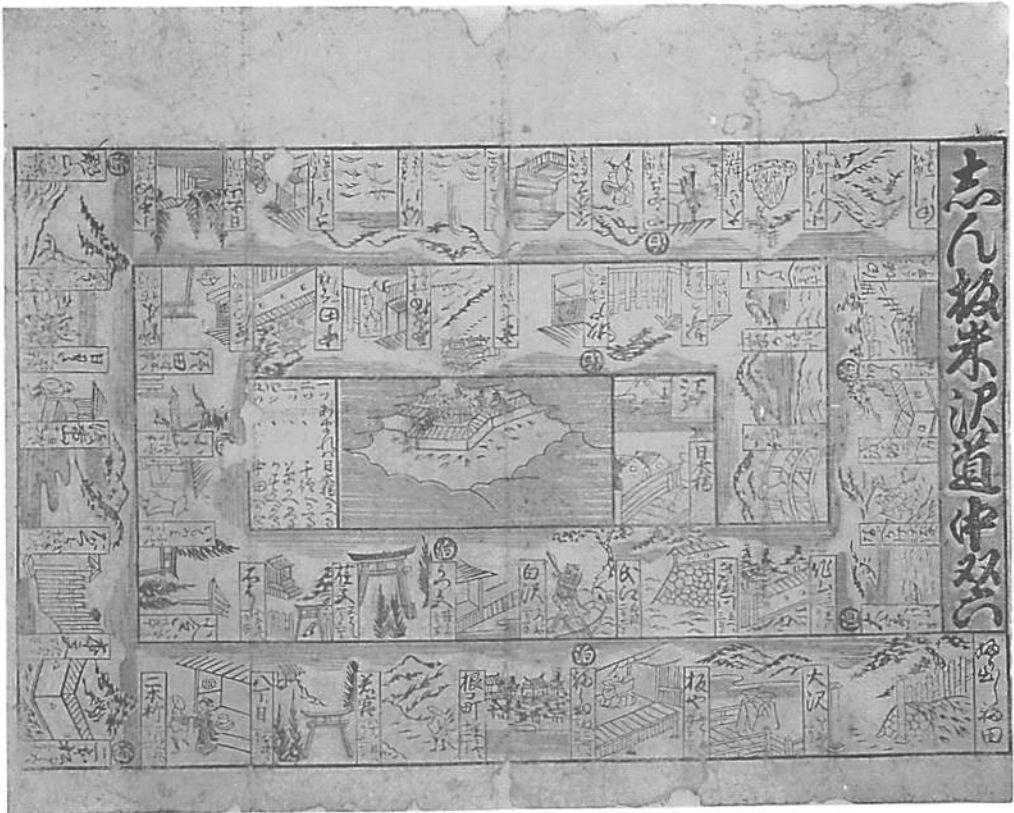


鉛筆デッサン画「猫」

椿 貞男 画

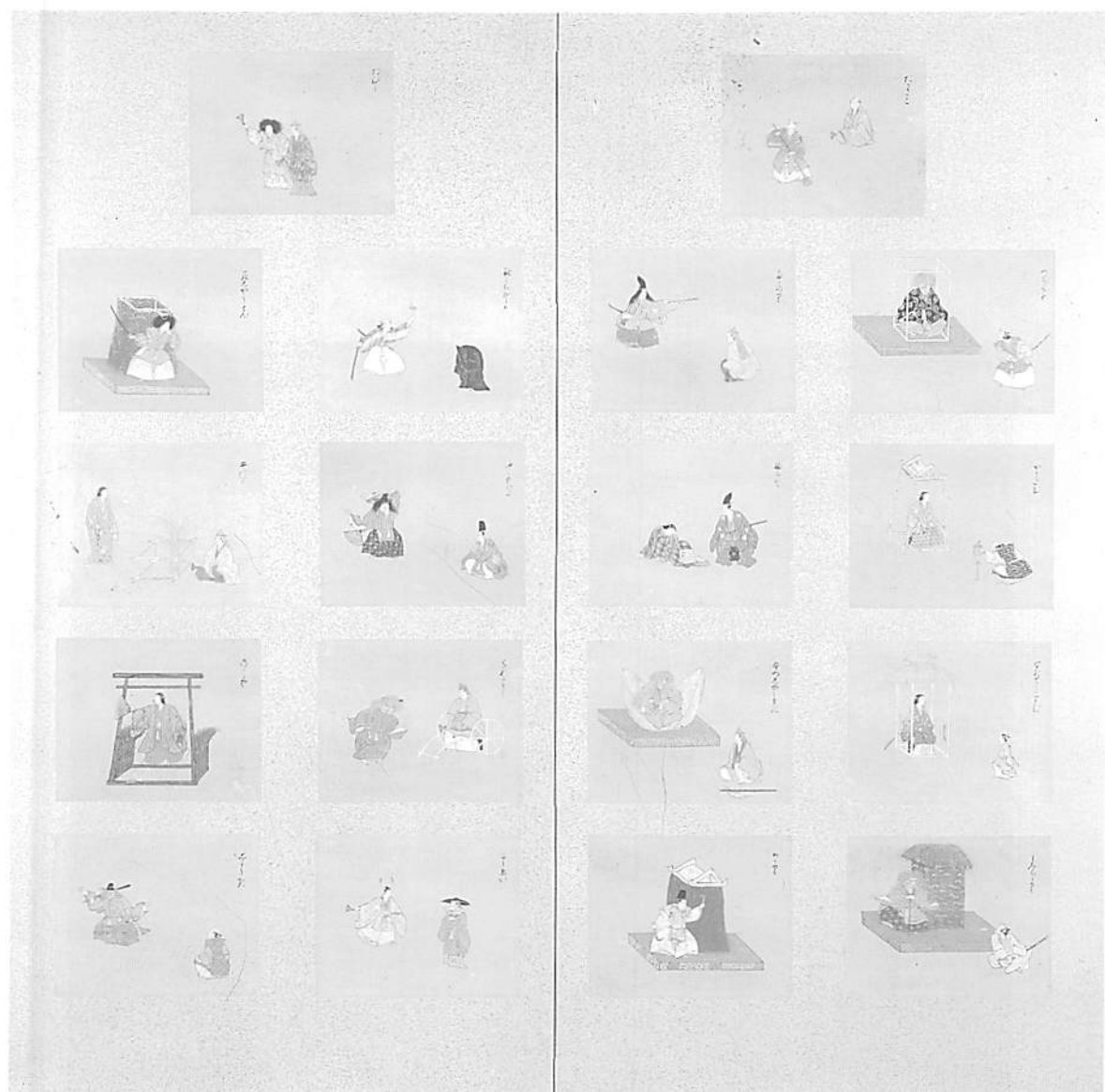
57.5cm×78.0cm

(37.8cm×57.8cm)



志ん板道中双六 作者不詳

30.0cm×38.0cm



金剛流謡狂言十八番

174.8cm×177.7cm

(23.4cm×29.3cm) ×18枚



## 収蔵資料件数

現在、収蔵資料の整理中で、1992年3月31日までに確認した収蔵資料件数のみ掲載する。

(1991年3月31日現在)

大 分 類	中 分 類	件 数	
書 跡			141
絵 画			277
美術工芸品	陶 磁 器	45	142
	土 人 形	66	
	彫 刻	12	
	そ の 他	19	
武 具 類			59
民 具 類	衣 装	62	137
	看板・棟札類	21	
	貨 幣	13	
	そ の 他	41	
文 献	個別文書	49	1,471
	嶋津文書	6	
	宇津江文書	15	
	杉原家文書	1,201	
	上杉孝久氏寄贈文書	200	
写 真			8
歴代市長・議長肖像			32
自然科学	動 物	93	94
	そ の 他	1	
		計	2,361

## 資料利用状況 掲載許可内容一覧

掲載許可申請団体名等	掲載刊行物等	掲載場面等
福島県立博物館	第3回企画展「秀吉・氏郷・政宗」資料	甲冑等
東海市教育委員会	細井平洲没後190周年記念展	興譲館の図
〃	〃	友干堂扁額
〃	〃	神保蘭室肖像
〃	〃	上杉鷹山肖像
P H P 研究所第1出版部	「上杉鷹山の経営学」童門冬二	愛宕山雨乞いの時のご帰還の図
〃	〃	上杉鷹山、織物作業視察の図
〃	〃	竹保当綱像
〃	〃	上杉鷹山、細井平洲を迎える図
〃	〃	興譲館の図
〃	〃	上杉鷹山、治広に「伝国の辞」を語るの図
九里学園教育研究所	「ザ・昆虫展一郷土の小さな生命と地球の仲間たち」	昆虫標本100箱
財最上義光歴史館	「やまがた甲冑展」	素懸浅葱糸威五枚胴具足
南陽市史編纂委員会	南陽市史本編「中巻」	苜戸善政像
御掘端史蹟保存会	会誌「懐風」	写真「鷹山、細井平洲を迎える図」
学校法人九里学園	細井平洲	興譲館の図
(株)新人物往来社	石田多加幸「写真集 豊臣秀吉の生涯」	直江兼続肖像
新潟県関川村企画財政課	関川村村史 別編「北越の豪農 渡辺家の歴史」	上杉鷹山肖像（上杉、熊松筆）
社団法人 米沢有為会	展示	我妻栄胸像
山形県社会科研究会	H4年度版4年生社会科副読本「私たちの山形県」	上杉鷹山肖像
〃	〃	細井平洲像ほか
〃	〃	興譲館の図
早稲田大学総長室広報課	全国ワセグマップ	米沢市立上杉博物館全景
(財)角川文化振興財団	ふるさと大歳時記第1巻	養蚕の図
(株)キウイ	「K I W I」5月号	細井平洲像ほか
P H P 研究第1出版部	新装版 上杉鷹山の経営学	上杉鷹山絵巻より 世子治広に伝国の辞を説く図
〃	〃	愛宕山における雨乞いの図
〃	〃	織物作業視察の図

掲載許可申請団体名等	掲載刊行物等	掲載場面等
PHP研究第1出版部	新装版 上杉鷹山の経営学	上杉鷹山、細井平洲を迎える図
〃	〃	竹俣当綱像
〃	〃	興譲館の図
(有)コンセント・フリー	組合だより	興譲館の図
(株)新集社 (同朋社出版)	アーティスト・ジャパン 第58巻	興譲館の図
(株)マックスコミュニケーションズ	日本テレビ「知ってるつもり上杉鷹山」	上杉鷹山肖像
〃	〃	薬科松柏肖像
〃	〃	竹俣当綱肖像
〃	〃	細井平洲肖像
〃	〃	荳戸善政肖像
〃	〃	神保蘭室肖像
〃	〃	上杉家歴代藩主像
〃	〃	興譲館の図
〃	〃	伝国の辞
〃	〃	かてもの
南陽市教育委員会	夕鶴の里資料館展示パネル	直江兼統肖像 養蚕の図
東光の酒蔵	鷹山公展示室 写真パネル	養蚕の図
(有)邑心文庫	季刊「こころ」	薬科松柏肖像
〃	〃	細井平洲肖像
〃	〃	竹俣当綱肖像
〃	〃	荳戸善政肖像
〃	〃	藉田之遺跡碑
〃	〃	興譲館の図
〃	〃	上杉鷹山像 (鈴木実作)

## 平成3年度 入館状況調

	一 般	学 生	小中生	団体一般	団 体	団体小中生	その他	合計人数	開館日数
4月	1,435人	117人	157人	49人	0	0	966人	2,724人	18
5月	2,763	193	473	0	0	20	0	3,449	13
6月	1,159	36	107	116	0	25	0	1,443	19
7月	1,032	107	313	20	0	77	0	1,549	18
8月	3,367	437	1,438	89	0	73	0	5,404	27
9月	1,825	181	154	60	81	35	0	2,336	21
10月	1,449	86	73	188	45	0	0	1,841	19
11月	1,601	51	100	69	0	166	513	2,500	20
12月	625	25	44	171	0	0	0	865	22
1月	381	15	42	78	0	0	0	516	22
2月	554	61	21	40	0	0	0	676	23
3月	786	126	42	140	0	0	0	1,094	21
合計	16,977	1,435	2,964	1,020	126	396	1,479	24,397	243

## 組織・名簿

### 米沢市立上杉博物館協議会委員

(平成2年7月1日～平成4年6月30日)

(平成3年4月現在)

氏名	役職等	備考
上杉季雄	米沢市小学校校長代表	(市立興譲小学校校長)
鈴木允	米沢市中学校校長代表	(市立第四中学校校長)
曾根伸良	米沢市高等学校校長代表	(県立米沢興譲館高校校長)
吉野正八	米沢市社会教育委員	
栗林一雪	(財)米沢市上杉文化振興財団副理事長	副委員長
石栗正人	市文化財保護委員会委員長	
中川勝	学識経験者	(市議会)文教厚生常任委員会委員長
上杉虎雄	〃	
大峽孟	〃	委員長
菊地伸之	〃	
鈴木仁	〃	
黒田信介	〃	
太田清柳	〃	
鳥海隼夫	〃	
山村精	〃	

(根拠法令等)

1. 博物館法第21条(博物館協議会)
2. 教育委員会が任命
3. 米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は2年  
(参考) 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験者のある者。

(職務) — 博物館法第20条第2項 —

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

平成3年度協議会開催

開催日 3月25日

場所 米沢市役所 庁議室

内容 報告 平成3年度博物館事業について

協議 平成4年度博物館事業計画及び予算について

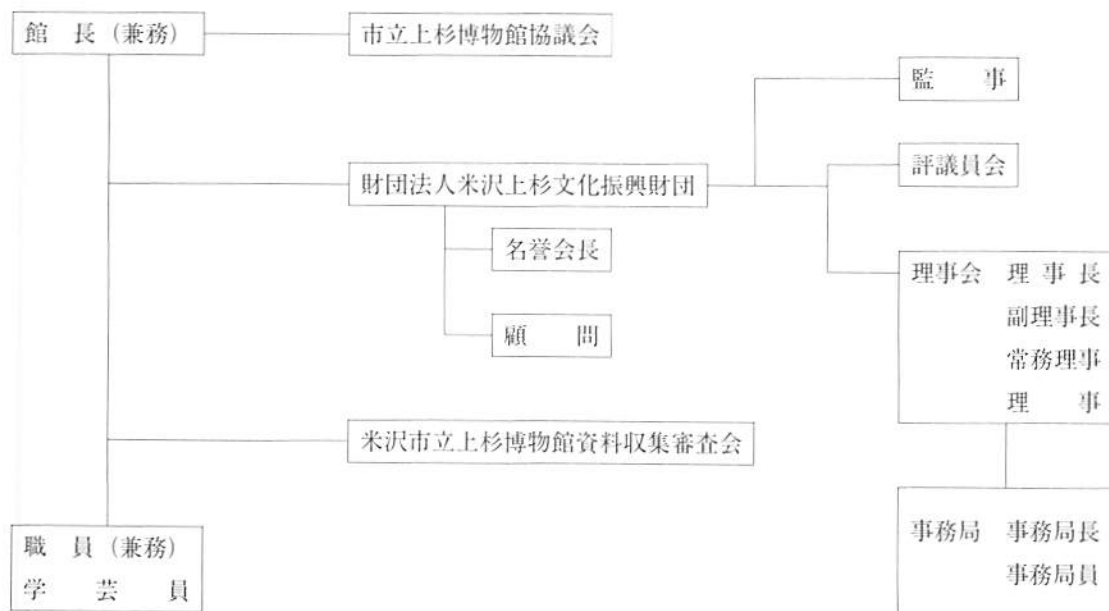
## 財団法人米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた(株)上杉博物館協会が解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日設立され、館の管理運営を財団に委託することとなった。

平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、重要文化財「上杉家文書」・同じく「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色麁図」・

重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈された。当財団はこれを機として設立されたものである。

地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示等の事業を実施し、地域社会のより豊かな文化生活に寄与する目的としている。



## 財団法人 米沢上杉文化振興財団役員 (平成3年4月現在)

名誉会長	上杉隆憲
顧問	高橋幸翁
〃	荒井政二郎
理事長	種村一郎
副理事長	青木厚一
〃	栗林金郎
常務理事	小口亘

理 事	上 杉 邦 憲	九 里 茂 三	長 岡 正
	上 杉 敏 子	小 嶋 彌 左 衛 門	北 目 二 郎
	上 杉 虎 雄	山 田 武 雄	石 栗 正 人
	上 杉 隆 治	椿 初 枝	大 峽 一 孟
	寛 統 子	黒 金 義 一	横 山 澄 郎
	山 中 絢 子	庄 司 淳	西 田 澄 生
	大 乘 寺 健	相 田 吉 助	松 田 俊 春
評 議 員	小 泉 溥 瑛	小 林 勇	松 野 良 寅
	新 田 秀 次	上 泉 治	荒 井 信 雄
	山 岸 才 一	勝 見 吾 助	菊 地 伸 之 力
	清 水 澄 良	手 塚 春 夫	須 貝 恒 平
	井 形 朝 榮	塩 川 勝 子	竹 田 海 茂 太
	小 野 伊 勢 吉	太 佐 藤 美 保 子	鳥 中 川 勝 信
	赤 木 伊 勢 雄	高 橋 素 子	新 屋 勇 正 一
	水 無 瀬 正 一	高 森 淳 助	佐 々 木 孝 子
監 事	村 岡 紀 子		

## 事務局

事務局長	内 山 充 雄
事務局員	村 田 元 生
〃	菊 地 米 子
〃	角 屋 由 美 子 (学芸員)

## 米沢市上杉博物館

館長 (兼務)	小 関 薫	米沢市教育委員会文化課	課長
職員 (兼務)	木 村 琢 美	〃	課長補佐
〃	小 林 伸 一	〃	文化財係長
〃	平 間 洋 子	〃	文化財主査
〃	山 田 隆	〃	文化財主事
嘱託職員	佐 藤 道 子	〃	学芸員

---

平成3年度

米沢市立上杉博物館年報 Vol. 4

編集 米沢市立上杉博物館  
助 米沢上杉文化振興財団  
〒992 山形県米沢市丸の内一丁目4-13  
☎0238-23-7302

発行 米沢市教育委員会  
〒992 山形県米沢市金池五丁目2-25  
☎0238-22-5111

平成5年3月31日 発行

印刷 (株) よねざわ印刷

---



